

ともい
新城「共育」を推進

1 はじめに

教育は、人と国家社会と地球の未来を形づくる崇高な営みです。その、10年、50年、100年後のあるべき姿を描き、家庭と学校と地域で担い、国家及び地方公共団体がこれを担保するものです。そこに必要なものは、人間愛に裏づけされた教育理念と長期展望です

それゆえ、教育問題は、国民的議論を呼び、政治課題となっています。特に、今年、内閣はじめ国会において、教育委員会制度、道徳の教科化、全国学力テスト、小学校の英語指導、教科書、いじめ・不登校などが、声高に議論されています。

ここで大切なのは、**教育基本法の理念に基づく冷静な判断**です。時の権力によって不当に支配されることなく、その公正性・継続性を維持することが不可欠です。政治や宗教からの中立性を保つことが重要です。民主的で文化的な日本国家を発展させ、世界平和と人類福祉の向上に貢献できる人間の育成は「**教育の使命**」です。

そこで、私は、教育長として、「**教育基本法を読む会**」あるいは「**読む機会**」の創設を提案します。「前文と4章18条」からなるこの法律は、現代日本の教育の魂であり原点です。一人一人が学校教育・生涯学習の担い手として、教育・文化・スポーツ等のさまざまな機会をとおして、そのあるべき姿を確認することから教育論議を始めたいものです。

そんななか、**平成26年度の「新城教育**」は、一人ひとりの子供を大切にしたいきめこまかな教育を推進してまいります。また、学校を拠点とした地域こぞの「共育」活動を、市民の皆様方のご理解ご協力をいただきながら、地道に進めてまいります。

新城の「学校教育」では「**健康・スポーツ**」「**躰・習慣**」「**遊び**」「**学び**」の**4つの視点を設けて実践**しています。まず、健康管理能力を高め、スポーツに親しみ、運動習慣と体力を身につけることをめざします。次に、あいさつ・整理整頓といった基本的な生活習慣の修得とともに感性や品性を磨き、集団のなかで社会的規範を身につけ、よりよい人間関係づくりを心がけます。そして、知識・技能を習得し、学力や教養を身につけ人生を豊かにし、将来の職業や自立に役立てます。

子供も大人も、「**共に過ごす**」場所と時間を得て、「**体**」「**徳**」「**知**」の「**三学**」を「**共に学び**」合う機会を設け、「**共に育つ**」感動・創造・貢献の喜びを共有し、**楽しく生きる力を獲得していこう**というのが新城の「共育」です。「共育」により、個人的には「**生きる喜び**」、社会的には「**地域に元気**」が生まれます。

また、新城の「生涯学習」では、「子育て活動」「地域活動」「健康スポーツ活動」「文化芸術活動」の4つの視点を設けて推進を図ってまいります。特に、地域と家庭と学校が連携して進める「共育」に足場を置いて、「市民が感動・創造・貢献の喜びを感じる環境づくり」を目標に、「新城の三宝を活かした共育活動の創出」をねらいとする**44テーマ92事業を構想**し全市的な取組をしていきます。

2 学校を「共育」拠点に

現在、新城市で「共育」活動を行うのにふさわしい場所は、「学校」です。理由は、公民館や児童館で行おうとしても、近くに子供のいない地域が増えているからです。25年度の1平方キロメートルあたりの「小学生人口密度」は、**新城市全体で5人**。新城地区16.4人、鳳来地区1.7人、作手地区0.9人です。子供がいったん家に帰ると、近所で連れ立って遊ぶことも困難です。

そして、**学校の敷地内に、乳幼児から小中学生、若者・親世代・お年寄りまでが共に集い合える場所、「広場」が必要**です。世代を超えて、スポーツや音楽に興じたり、もの作りや勉強に熱中したり、読書や議論にふけったり、歌舞伎やお茶お花の稽古をしたり、料理や手芸、囲碁や将棋などの趣味を楽しんだりできる場所です。住民が少なくなり学校統合で学区が広がっても、共に、学んだり遊んだり食事をしたり、地域自治や世界情勢などについて語り合うことができれば、**顔と名前のわかる人間関係が築かれ、絆も深まり、活力ある町づくりにつながります。「共育」の実現は、「地域の元気」に直結**します。

現在、市内の全小中学校において、「新城の三宝」である「自然」「人」「歴史文化」を活用した特色ある教育活動を展開しています。子供たちは、学校から地域に出て、ボランティア活動や防災訓練、地域行事などに参加し、地域の人々と交流しています。逆に、地域の方々が学校に来て、「学校支援隊」をはじめ、読み聞かせや環境整備、学習補助などを行い、子供たちと関わっています。こうした相互の活動を広げるなかで、**地域の伝統文化の継承や自然環境の保護もでき、安全安心も守られ、故郷（ふるさと）を愛し誇りに思う子供が育つ**のではないのでしょうか。

平成26年度は、**6月15日(日)を「共育の日」として**、市内全小中学校で学校を公開し共育活動を行います。市民の皆様方には、学校に関心をもつていただき、どこの学校を参観されても結構ですので、ぜひお出かけください。

3 学校再配置の動向

学校再配置により、平成25年4月に、黄柳川小学校と作手小学校南北校舎が発足しました。本年度になってからも、新城市「再配置指針」に基づき、**鳳来北西部地区の、鳳来寺・海老・連谷・鳳来西の4小学校区におきまして協議が進められている**ところです。

過日行われた「聞いてください私の話」でこんな場面がありました。統合した2校の6年生がステージに登場し、「巴小と協和小がいっしょになって9か月。このように仲良くなりました。仲間が増えたことがとても良かったと思います。」と、肩を組み笑顔で話し始めました。**大人たちの心配をよそに、子供たちは統合という未知の環境にほどなく適応し、新しい世界をぐんぐん広げているようです。**

統合は、子供たちの「学習環境の向上」「学校教育活動の活性化」をめざしますが、同時に、学校と地域の「共育」環境の充実を期してまいります。子供や地域の人々が「共に過ごし」「共に学び」「共に育つ」活動のできる「空間」「広場」がポイントです。平成29年4月の新設統合をめざす作手小学校においては、**活発な活動・交流ができる「広場」や「共育空間」を重視した実施設計を進めます。**また、将来に備えて、作手中学校分も含めた食数をまかなえる調理場を考えます。

さらに、**統合によって学区が広がるなかで、「放課後の子供の活動」をどう担保するかは、きわめて重要な問題です。**現在の児童クラブが対象とする子供だけでなく、全児童を対象として柔軟に考えていきます。また、通学バスの時間に縛られるなかで、子供どうしで遊んだり学び合ったりする時間と場所と機会を確保することも重要です。さらに、徒歩通学の距離が激減するなかで運動量を担保する対策も不可欠であり研究を深めてまいります。

いずれにしても、学校統合は、地域の総意に基づき、プラス志向で進めます。**子供にとって「よりよい教育環境」を創造し、地域にとって「新たなるおらが学校」を構築し、地域づくりの拠点にしていきたいものです。**そのためには、どうしても「地域の力」が必要です。地域こぞって「新しいおらが学校」づくりに努めて「共育」を実現したいものです。

4 道徳の地域化

「道徳の教科化」が話題になっていますが、**新城教育では、「道徳の地域化」をめざします。**当然のことながら学校の道徳授業で扱うべき内容については、いっそうの充実を図ります。とりわけ、自立した社会生活を送るうえの基礎となる「躰・習慣」に目を向け、PTAなどの協力を得ながら市民総ぐるみで、**新城「共育12」運動で、基本的な生活習慣やマナーや礼儀作法に重点を置いた啓発活動を進めます。**

昨年、「共育12」の「ロゴマーク」入りポスターを市内全戸に配布しました。「ともにあいさつあいことば」を合言葉に、月ごとに重点項目を定め、毎月12日を「共育12の日」として、ホームページや放送をとおして広報しています。ちなみに**12か月の標語の頭文字をつなげた「ともにあいさつあいことば」は掛詞**で、「友だちに心をひらいて挨拶しようを合言葉に」という意味と、「互いに思いやりの心を察し愛の言葉を発していこう」という意味です。

もとより「心の教育」は、学校教育のみで完結するものでなく、家庭や地域とともに担っていくものです。日本人としての「人の道」、日本社会の「常識」、日本の歴史文化のなかで培われた「生活習慣」や「行動様式」、これらを厳選して「共育12」のなかにこめています。子供の「いじめ」「不登校」が問題となっていますが、解決の方向を見出すためにも、「共育12」の普及・実践、「道徳の地域化」が必要です。「やっていいこと、悪いこと」「やらなければならないこと」など、中学生以上になれば頭でわかっていることが多くあるだけに、親や大人には、「共に育つ覚悟」が必要です。

「いじめ」も、もとを正せば、「思いやりの欠如」「勇気の無さ」に端を発しています。「共育12」の「友だち家族なかよくします」「いじめ暴力絶対しません」「ことばは心をこめて伝えます」などについて、学校や家庭、地域において、具体的な活動を考え行動に移すことで生活は変わります。学校現場においては、「いじめ防止基本方針」を策定するとともに、一人一人の子供にきめ細かなサポートができるよう、ハートフルスタッフの充実を図ります。

5 学校教育の充実

学校教育の充実について、主なものを述べます。

まず、「共育体制の推進」です。「学校の力」と「地域の力」を合わせて、地域総ぐるみで子供の教育機会の拡充を図るとともに、「地域自治区」の主要テーマにも取り上げていただき、地域住民が子供とともに活動し学ぶ場を設定し、地域の活性化と絆を強いものにしていただけることを願います。学校にも、当面、教頭と兼任になりますが「共育コーディネーター」を設置し、バランスのとれた運営をこころがけます。将来的には、学校運営協議会の設置やコミュニティスクールを構想していきます。

次に、「教師の子供と向き合える時間の確保」のための「職場改善」です。各種団体や行政機関、企業等からの、学校への作文や習字・絵画などの作品募集、各種アンケートの依頼。放射線教育・E S D教育など新たなる教育のリクエスト。保護者や地域の相談・要望など。年々増えることはあっても減ることはありません。また、発達障害や食物アレルギーなど個人的支援を必要とする子供も増え、いじめ・不登校や問題行動への対応、不審者や災害への対策など、複雑化多岐化しています。こうした以前とは異なる明らかな変化があるにもかかわらず、教職員の人数は変わりません。

そこで、「部活動等のあり方検討委員会」や「教職員の服務検討委員会」を設けて改善策を検討してまいります。さらに、「教育委員と現場教職員との意見交換会」「青年教師と教育長との懇談会」などを行い、学校現場の生の声を聴取して、教育委員会としてできることに着手し、子供と向き合える時間の確保に努めます。

また、「子供の学力向上」については、読書・作文・推敲の「三多活動」の

継続を図るとともに、教職員研修の充実や「小中連携教育」でその実を上げていきます。「グローバル人材の育成」については、「英語の日」実施校の拡大や、世界のニューキャッスルの学校との交流や新城ユース会議との連携を図ってまいります。

いっぽう、いじめ不登校など生徒指導にかかわっては、スマホの普及に伴って増大しているといわれるゲームやラインなどの「ネット依存」について「スマホ等対策委員会」を設けて対応を考えます。さらに、昨年、全中学校で始めた防災委員会において防災減災・危機対応の力の向上を図っていきます。さらに、特別支援教育では、こども園と小学校、小学校と中学校との接続・連携を円滑にして充実を図ります。

学校施設については、作手小学校の南北校舎を統合する**新校舎建設のための、実施設計や用地買収を始め、「共育施設」のモデルをめざします。**また、**学校のコンピュータ設備の更新**をします。各学校に設置してあるサーバーを更新してセンター化し校務支援システムにより成績管理や保健システムなどを統一して事務の効率化を図ります。

さらに、作手南校舎に配置されているスクールバスの更新や、千郷小の臨時バス、鳳来中の冬季の臨時バスを確保し、**子供たちの通学の利便性の向上に努めます。**また、「木の香る学校づくり事業」として、木製机を7小学校に導入します。学校トイレ洋式化も4小中学校で進めていきます。

6 スポーツ振興計画の策定とDOSの推進

冬季オリンピックの報道や2020年の東京オリンピック開催に向けて、スポーツへの関心が高まっています。新城教育においても、「健康・スポーツ」は、重要課題の一つですが、子供のバス通学による運動量の減少、生徒数減による部活数の減少、市民の運動習慣の形成などへの対策が早急に求められます。これらの**課題解決に向け、「健康スポーツ振興計画」の策定を始めます。**

また、昨年4万2千人の観衆を集めた日本一の「新城ラリー」をはじめ、「ツールド新城」「山岳マラソン」「クライミング」「カヌー」「パラグライダー」など、**DOS・アウトドアスポーツのメッカとして全国から注目されている新城市です。**今年の「新城ラリー」は、11月1日・2日に総合公園で開催します。さらに、新規事業として、愛知県や中日新聞社などとともに、奥三河の街と村と森をつなぐ山岳里山マラソン「**奥三河パワートレイル**」を平成27年3月21日・22日に計画しています。

7 ジオパーク構想の推進と文化財の整備

「新城の三宝」のうち、「自然」と「歴史文化」は、**市内に数多くの文化財指定や日本百選があり、学術的価値も観光資源価値も高く、まさに宝庫です。**

なかでも、地質岩石・動植物については、中央構造線をはじめ、蛇紋岩、松脂岩、モリアオガエルなど、特筆すべきものです。そして、この大地に伴う、岩や滝、樹木や草花、里山などの自然風景や、城址や寺社などの歴史的景観も見事です。この**新城の「恵まれた大地の自然と生活文化を融合したジオパーク」を、鳳来寺山自然科学博物館を核として、豊橋や北設など近隣市町村と協力し、東三河ジオパーク構想を推進します。**

また、東照宮や鳳来寺の石垣、満光寺の庭園、城址や古墳の整備とともに、放下や田楽、薪能や歌舞伎など無形文化財の保存伝承を支援し、案内看板の修繕も進めていきます。

8 おわりに

人間は、常に変わり続ける存在ですから、教育は子供だけでなく、大人にとっても必須です。生涯学び続ける姿勢、運動し続ける習慣のなかに、やりがい・生きがい生まれ、人生を楽しく元気に過ごせます。大切なのは、「未来からの使者」である子供たちの明日に確かな希望の灯をともし、**「人生の大先輩」である高齢の方々の今日に元気の活力を生み出すこと**です。地域に住む一人一人が元気になれば、おのずと地域全体が元気になります。子供と大人が共に学び活動する「共育」により、社会の一員として責任ある行動や態度のとれる**市民性を育む「シチズンシップ教育」もおのずと実現**します。**地域の力・地域の英知を発揮して、学校を拠点とした「地域総ぐるみの共育活動」が展開**できますよう、市民の皆様方のお力添えを、よろしくお願ひします。